

早期収穫可能で作期分散に有効な飼料用水稲多収品種

「いわいだわら」

利用対象：水稲生産者、指導者

飼料用水稲多収品種「いわいだわら」(農研機構東北農業研究センター育成)は収量性に優れ、「あきたこまち」並みの成熟期で「コシヒカリ」より早く収穫可能なため、「やまだわら」をはじめとする中生の飼料用品種との作期分散も可能である。

表1 「いわいだわら」の生育、収量等の栽培特性

試験地 移植期 (月・日)	品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	精籾重 (収量) (kg/a)	収量比 (%)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (0-5)	千粒重 (g)	脱粒率 (%)
松阪 (4.25)	いわいだわら	7.06	8.12	89.5	108	84	21.4	288	0.2	25.1	0.4
	比較)やまだわら	7.25	9.05	83.3	100	80	21.8	343	0.0	22.4	0.3
	参考)あきたこまち	7.08	8.09	72.0	87	81	18.9	411	0.3	21.9	-
	参考)コシヒカリ	7.15	8.18	80.3	96	90	20.4	407	2.9	21.6	-
伊賀 (5.10)	いわいだわら	7.15	8.23	86.9	93	86	20.2	288	1.0	27.0	0.8
	比較)やまだわら	8.02	9.19	93.3	100	82	20.8	359	0.0	23.3	0.6
	参考)コシヒカリ	7.23	8.26	73.9	79	90	19.4	396	1.9	23.4	-

注) 耕種概要、施肥、栽培管理等は詳細版を参照

「いわいだわら」の特性

●収量性

- ・精籾重は松阪市の4月下旬移植条件で89.5kg/a
伊賀市の5月上中旬移植条件で86.9kg/a
→松阪市、伊賀市ともに精籾重85kg/aを上回る多収性を示した。

●成熟期

- ・松阪市の4月下旬移植条件で8月12日、「あきたこまち」より3日遅く「コシヒカリ」より6日早い。
→成熟期が早く「コシヒカリ」や「やまだわら」との作期分散が可能。*

●その他特性

- ・イネいもち病抵抗性は真性抵抗性遺伝子型が*Pik*および*Pib*と推定。
→県内で確認されている主ないもち病菌のレースに対してほとんど発病することはない。
- ・ベンゾビシクロン等のトリケトン系4-HPPD阻害型除草剤に対して“非感受性”。
→「やまだわら」で見られるような茎葉部の白化等の薬害は生じない。



図1 成熟期7日前の「いわいだわら」

※2023年8月16日撮影(伊賀市)

※近年、県内におけるいもち病菌のレース分布が変化しているため、今後は「いわいだわら」においても、いもち病の発病リスクがあります。必要に応じて、いもち病に対する防除を行いましょう。

※「いわいだわら」の穂発芽性は“易”であるため、適期の収穫を心掛けましょう。

※令和8年3月時点では、種子の入手先が限られています。以下を参考としてください。

種子の入手先情報：https://www.naro.go.jp/collab/breed/seeds_list/index.html (農研機構)

問い合わせ先	伊賀農業研究室 中央農業改良普及センター 地域農業推進課	電話 0595-37-0211 電話 0598-42-6323
参考になる資料	三重県農業研究所 成果情報一覧 詳細版 http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm	